

ご意見の要旨	本市の考え方
全般	
全体的に素晴らしい概念、施策方針までが示されていると思いますが、もう少し具体的な施策レベルのモノは今後示す予定があるのでしょうか。 また、今後、具体的な定性・定量的な数値目標などは設定されるのでしょうか。	D Xの推進に向けた具体的な取組については、別途、「大阪市D X戦略アクションプラン」を策定しております。 同アクションプランにおいて具体的な定性・定量的な数値目標などを設定し取組を推進してまいります。
誰もがデジタルの恩恵を受けられるという全体的な表現をされていると思います。その中で、そもそもどんな恩恵が受けられるのか、情報過多すぎて適切な情報を得られない場合も多い現状をどう、改善し市民ファーストなre-design が為されていくのか記載しても良いのではないかと思います。	D Xの推進に向けた具体的な取組については、別途、「大阪市D X戦略アクションプラン」を策定しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
おおさか特有の課題やベルソナ（誰に？）がなく、優先順位の記載がないので、一般的な施策に見えてしまいます。ベルソナの定義が必要だと思います。 サービスの範囲もベルソナで変わってくるので定義した方が明確になると思います。	
他とは違う、より大阪らしいストーリーと具体的なアクションを示すことで、さらにワクワクする市づくりを目指すことを提案します。	
具体的な数値ゴール（中長期的に）を定義することで目標のイメージがつきやすいと思います。	
現実課題がどのように解決できるのか、デジタル化の具体的な恩恵（効果）を例示した方がわかりやすと思います。例：買い物難民のご老人をデジタル活用することで解決できるなど。	
全体的に主語が不明で誰に恩恵があるのかが分かりません。例えば、市民、従業者、観光客、職員等なのを示すことは可能でしょうか。確かに、サービス利用者目線でのRe-Design、 1 9 ページでは市民が元気、また2 2 ページでは企業が集まるとありますが。また、市の職員の業務効率化への貢献は？	P7「MISSION（本市の使命）」において、D Xは大阪市のあらゆる行政分野・施策を対象として取り組んでいくこととし、「大阪市内で生活、経済活動を行う多様な人々」がその恩恵を受けられるよう取り組んでまいります。 そのうえで、ご指摘の点について、主語を明確にすることでDX戦略に掲げる意図が伝わるよう、記載内容の修正を行いました。
大阪市という行政範囲に留まることなく、大阪府・国・周辺市区町村そして近隣府県とも密に連携し、個別最適ではなく全体最適視点でのシステム・サービス設計をお願いしたいです。	本市として、あらゆる行政分野・施策を対象に、個別最適ではなく全体最適に取組み、市民がWell-beingを実感できる都市への成長・発展をめざしてまいります。 いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。
2040年というタイムラインは概要版でも記載した方がイメージつきやすいと思います。	2040年のタイムラインは概要版P4にもお示しし、また、D Xの推進に向けた具体的な取組については、別途、「大阪市D X戦略アクションプラン」を策定しております。 さらに、同アクションプランにおいてVALUEの実現と目標達成に向けた今後のロードマップを作成したうえで取組を推進していくこととしております。
「カオスとスマート」については、より一歩進んだ具体策の検討をお願いします。 おそらくつながり・にぎわいの章がそれにあたるのかと思いますが、スマートではありますがカオス側が弱いように感じました。 ここが大阪らしいDX戦略の肝になるのではと思いますので、期待しています。	大阪市内は、多様性に富み、個性が光る人々、モノ、場所・地域を有しており、一方でデジタルの力を融合させ、多様な個性を新しいものに進化させることを意図してDX戦略には「カオスとスマート」と表現しております。 具体の取組については、別途、「大阪市D X戦略アクションプラン」を策定することとしておりますが、ご意見いただきました大阪らしい「カオス」を実感いただけるような取組を増やしていけるよう努めてまいります。

システム・デジタル化で解消できない問題を他の手段で解決することも検討が必要ではないか。	本市におけるD Xは、データやデジタル技術の活用を前提に、サービスの利用者の目線で、大阪市のまちや地域のあり方、サービスや行政のあり方を再デザインし、社会環境の変革にも的確に対応していくことにより、本市で生活、経済活動を行う多様な人々が、それぞれの幸せ（Well-being）を実感できる都市へと成長・発展させることとし、本市のあらゆる行政分野・施策を対象として取り組んでいくこととしております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
03 大阪市のD X戦略	
「行政DX」の「効率的かつ質の高い組織・業務運営の実現」を掲げるのであれば、「市立学校や教育委員会にも、I C T人材を大幅に増員」していくべきですね。また、大阪公立大学や大阪教育大学を始め、私大も含めて「情報科教員の育成」にも予算を投入すべきですね。	戦略の視点では、定型業務を単に効率化するという従来のデジタル化のみならず、保有する行政データやデジタル技術を活用し、業務の変革と生産性の向上を図り、生み出した時間や人材を職員にしかできない業務に注力し、効率的かつ質の高い組織・業務運営による自治体経営を実現させることを記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
DXで目指すことが何を指すのか明確にした方が良いと思います。	D Xの推進に向けた具体的な取組については、別途、「大阪市D X戦略アクションプラン」を策定しております。 同アクションプランにおいて具体的な達成目標などを設定し取組を推進してまいります。
03 大阪市のD X戦略 ― VALUE 01 サービスのRe-Design	
行政からデータを出す形ではなく、市民に属性を登録してもらうことでプッシュ型通知機能を実装することで、市民情報の管理と市民の利便性を同時に叶えることが必要になるのではないかと。 行く行くは、行政の保有データから市民情報に基づく市民の求めるサービスを分析し、プッシュ型通知に活かすことも可能になれば、より良い市民サービスの提供に繋げることができるのではないかと。	サービスのRe-Designでは、市民等に対して個々の属性・行動・嗜好に合わせてパーソナライズされた情報を提供するプッシュ型の情報発信の充実について記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
デジタル行政手続きの拡大は、素晴らしいことだと思います。名前や住所を記入するだけの申請や届出のために、区役所の窓口で長時間待つ必要性はないからです。家でスマホからできる手続きがどんどん増えていけばいいなと思います。ただ、心配なのが紙の様式をそのままオンライン化してしまうのではないかとということです。例えば、引っ越しの際に区役所へ提出する「異動届」には手続きごとに様式が定められています。特に福祉の制度を多く利用している場合、児童手当、障がい者手帳、福祉サービス、特別障がい者手当、保育所、指定難病、有料道路割引など何度も何度も名前や住所を書く必要があります。もし異動届をそのままオンライン化したとしても、手続きごとに何度も名前や住所を入力することには変わりはなく、市民の負担はあまり軽減されません。手続き漏れのおそれもあります。なので、まずは紙の様式を見直し、できるだけ書く回数を減らし、紙の様式が改善されてからオンライン化を進めていってほしいと思います。デジタル化という手段を目的化して、デジタル化を急いでしまった結果、使いにくいものができあがっても市民の負担軽減にはならないからです。たとえば「異動届」の様式を一つにして、異動届1枚だけであらゆる引っ越しの手続きをできるようにするなどを進めてほしいです。窓口の混雑解消にもなります。また、オンライン化を進める際には、「福祉の関係は福祉局の所管だからデジタル統括室に言われても困る」などのくだらない縦割りや業務の押し付けはやめてほしいものです。大阪市の各部署が一体となって市民のためになるデジタル行政手続きの拡大を進めていってください。大阪市が発展し、日本中そして世界中から注目される都市になることを期待しています。	ご指摘いただいた課題については本市としても認識しており、今後国が示している下記デジタル3原則に基づいたデジタル行政手続きの拡大を進めてまいります。 ① デジタルファースト：個々の手続・サービスが一貫してデジタルで完結する ② ワンスオンリー：一度提出した情報は、二度提出することを不要とする ③ コネクテッド・ワンストップ：民間サービスを含め、複数の手続・サービスをワンストップで実現する

母子手帳アプリはなぜ導入されないのでしょうか？非常に便利だと思うのですが。豊中市の友人は導入されたアプリを活用されてて、非常に便利だと感じているようです。	
子供の定期接種のワクチンの管理が難しいです。日々子育てで忙しい中、子供の月数、年齢によってワクチンを打つタイミングが異なり、打ち忘れないか不安です。しかも子供が複数いると混乱かつ忘れがちです。せめて定期接種のワクチンをデータで管理する方法はありませんか？他市のママ友は電子化した母子手帳を活用してワクチンのタイミングを知らせてもらってるようです。そのようなDX戦略があれば便利にかつ有効になると思います。	サービスのRe-Designでは、市民等に対して個々の属性・行動・嗜好に合わせてパーソナライズされた情報を提供するプッシュ型の情報発信の充実について記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
03 大阪市のDX戦略 — VALUE 02 あんしんのRe-Design	
データ収集の記載とともに、具体的な活用方法、連携先が見えた方が良くと思います。	あんしんのRe-Designでは、ビッグデータを活用したまちづくりの推進やIoTセンサー等を活用した安心できるまちづくり等について記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
デジタルシュミレーションサービスは他都市ではまだ事例も少なく、構築費用も高額になるため、東京都のデジタルツインプロジェクトを参考にし、達成したい目的や活用方法を明確に定めることで、より効果的に事業化することができるのではないかと。	あんしんのRe-Designでは、防災シミュレーション等による被害想定 の把握、発災時の行動計画への反映等について記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
03 大阪市のDX戦略 — VALUE 03 つながりのRe-Design	
デジタルを活用しながら、人との繋がりやふれあいも大切にできる行政サービスが必要なのではないかと。	つながりのRe-Designでは、デジタルの力を活用することにより、人々 とつながりながら課題が解決され、まちが発展していくこと等を記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
繋がり の主体として「企業」も含めると活性化すると思われます。	つながりのRe-Designでは、行政だけで取り組むのではなく、「企業」も含めた産学民など多様な主体と連携し、デジタルの力を活用することにより地域コミュニティを活性化させていくこととしております。 そのうえで、ご指摘の点については、「企業」も含めた地域の活性化につなげていく意図がより伝わるよう、記載内容の修正を行いました。
「より便利な行政サービス」をさらに進め「より便利なまち・くらし」を実現するために、民間への当該基盤のオープン化や、民間のID・システムとの連携に注力してはどうでしょうか。	つながりのRe-designでは、幅広い様々な課題に対し、行政だけで取り組むのではなく、産学民など多様な主体と連携していくこと等を記載しております。 いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。
03 大阪市のDX戦略 — VALUE 04 にぎわいのRe-Design	
OSAKA EXPO以降の にぎわいを高めるプロジェクトをデジタルと組み合わせ て構想することを提案します。 大阪へのインバウンドは中国、韓国、東南アジアからの買い物客が多いので、観光×買い物の観点で注力した方が良くと思います。	にぎわいのRe-Designでは、スーパーシティ、大阪・関西万博を契機に、最先端でスマートなまちづくりを進めていくこと等を記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
大阪市が提案するDXに関して、市民が触れる・感じられる施設や仕組みがあると良いと思います。 例：DXを具現化している展示スペース的なものがあれば市民に理解を得られると思います。	にぎわいのRe-Designでは、バーチャル技術を活用したまちの魅力発信を進めていくこと等を記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
大阪の特産品や地域限定品をオンライン購入できるイベントの開催等により遠隔で地域振興を図る取組と、バーチャル観光の後に現地に訪れることで特典を得られる仕組みを構築することにより観光に繋げる取組みの、両面からアプローチすることで大阪の魅力を世界に発信できるのではないかと。	にぎわいのRe-Designでは、バーチャルな大阪を旅行した世界中の人々が大阪の魅力を感じ、リアルの大阪に訪れ、にぎわっていること等を記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。

オープンデータの充実には大変期待をしまして、民間企業の期待も大きいのではないかと思います。 例えば、具体性を持たせるために「大阪市オープンデータポータルサイト」などすでに公表しているサイト名を記載するとともに、さらに進化させるとすればどうでしょう。	D Xの推進に向けた具体的な取組については、別途、「大阪市D X戦略アクションプラン」を策定しております。 同アクションプランにおいて、オープンデータの推進について記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
企業側のメリットを明確にした方が良くと思います。 スタートアップの視点での支援が記載された方が良くと思います。	にぎわいのRe-Designでは、大阪市中で経済活動を行うあらゆる事業者が活躍できるようニーズに応じた支援を行っていくこととしております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
域内企業のDX導入を支援するだけでなく、DXサービス提供企業も支援することで、大阪市中にDX企業の誘致が可能になりDX活用がより活性化するのではないかと。	にぎわいのRe-Designでは、オープンデータの充実により企業等でのデータ活用の推進について記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
大阪市中260万人のビックデータは魅力。行動変容が取れれば、ビジネスチャンスに繋がると思います。	にぎわいのRe-Designでは、オープンデータの充実により企業等でのデータ活用の推進について記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
03 大阪市中のD X戦略 ― VALUE 05 やさしさのRe-Design	
環境負荷低減に対するKPI値を定めると共に、資金調達と連動させる仕組みを導入してはどうか。	やさしさのRe-Designでは、環境問題とデジタル技術をマッチングさせ、ひとにも環境にもやさしい持続可能なまちづくりにも活かしていくこと等を記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
大阪は、失業率や生活保護受給率等の課題があるイメージがある。それらの課題に対処する施策の一環として、DX戦略に大阪市民のリスクリングを推進することを提案します。	やさしさのRe-Designでは、デジタル機器・サービスに不慣れな人が、身近な場所や地域でデジタル機器・サービスの利用に関して学べる・相談できる機会の創出を進めること等を記載しております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
仕事のつながりに大阪市民のデジタルリテラシーを高めたり、リスクリングを進める施策を提供が必要になると思います。 失業率、教育レベルなど大阪ならではの課題を明示し、まずは現状を理解することからのスタートが良いと思います。	
03 大阪市中のD X戦略 ― VALUE 06 しごとのRe-Design	
窓口サービス向上の為、職員のノウハウを共有し伝播する仕組みや、窓口職員の業務負荷軽減に対する取組みも必要なのではないかと。	しごとのRe-Designでは、データとデジタル技術を最大限活用した生産性の高い業務スタイルに変革し、窓口サービスをはじめとした新たな行政ニーズに柔軟に対応していくこととしております。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
市民の就労雇用アップ、給与アップの観点に関しても盛り込んで欲しいです。 時間と場所と書類の所在、決裁プロセスにとらわれず、あらゆる職員が大いに能力を発揮できる働き方改革を実践し、業務の標準化とDXの実践を提案します。 職員に選ばれる職場になるという視点を追加すると良い。ノーコードツール等でどのような内製環境を実現したいのか具体化が必要だと思います。	しごとのRe-Designでは、職員業務におけるデータやデジタル技術を使った徹底した効率化等について記載しております。 また、しごとのRe-Designは大阪市中職員のしごとに関するものを記載しており、その意図が伝わるよう記載内容の修正を行います。 いただいたご意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
大阪市中においては、既に住民基本台帳関係業務を始め、税関係業務、国民健康保険関係業務や福祉関係業務などのシステム化が個別に構築されているが、国の標準準拠システムへの移行にあたっては、制度設計への適切な関与を行い、本市単独事業などのオプションをシステムに盛り込めるよう、最大限の努力をお願いしたい。 ※システム内への盛り込み（オプション採用）が実現できなければ、二重・三重に個別のシステムを運用し続けることになりかねず、十分な効率化が実現しないため。	しごとのRe-Designでは、住民基本台帳事務などの20業務とそれらに関連する業務について市民の利便性向上及び行政運営の効率化に向けた業務見直し（BPR）を進め、住民系基幹業務システムを刷新すること等を記載しております。 ご指摘の課題については本市でも認識しており、ご意見を踏まえ、システム標準化に向けて取り組んでまいります。

03 大阪市のD X戦略 ― STRATEGY00	
行政職員向けにチャレンジしたメンバーを奨励する仕組みを導入し、活動を共有しながらモチベーション高く維持する施策を提案します。	STRATEGY00では、DXの推進に必要な財源の確保や人事制度などDXを後押しする仕組みづくりを行っていくこととしております。 いただいたご意見は、今後の施策の参考とさせていただきます。
04 D X戦略の推進に向けて	
情報システムやAI・RPAの採用に当たっては、デジタル統括室が全市的な観点から、最適な規模や仕様などを統括的にコントロールし、大阪市組織全体の最適化を実現することを期待する。 ※各所属ごとの個別導入では、全市的な最適化を阻害する可能性が懸念されるため。	ご意見のとおり業務の全体最適化の観点は重要であると認識しております。 D X推進体制において、デジタル統括室は司令塔の役割を果たすとともに、必要に応じて部局横断的なプロジェクトチーム等を設置するなどしてD Xを推進していくこととしております。
現市政では、カジノばかりに予算を投入しているが、必要な予算をI C Tに投入すべき。最近発生した大阪市内にある『大阪急性期・総合医療センターの「ランサムウェア」サイバー攻撃事件』のような被害を受けにくくしたり、救急患者や外来診療の受け入れ停止という事態を少しでも早くを改善したりするためにも。	D X推進体制では、職員の情報セキュリティに関するリテラシー向上やセキュリティ人材の育成・確保に取り組み、外部の高度専門人材を活用するなど、最高情報セキュリティ責任者（CISO）をトップとした全庁的なセキュリティ体制の確保・強化を推進していくこととしています。